

囲碁の普及と囲碁交流による健全な児童、健全な家庭、
心身健康な高齢者、潤いのある地域社会作り事業

取材日：平成22年（2010年）12月8日

【活動目的】

健全な児童、健全な家庭、元気な高齢者が健全な地域社会を作り上げると確信し幼稚園、小・中学校、公民館等との協働の下、各種イベントを通じ、事業を推進している。

日本の伝統文化である「囲碁」は思考力・集中力・コミュニケーション能力が培われる知的ゲームであり、子供の間でひそかなブームとなっている。また、礼に始まり礼に終わる対局マナーは総合的な人間力を養い、躰教育に悩む親の手助けにもなる。当会は囲碁指導を通じ、教育現場の要望に応じて子供の知的・情操教育に尽力すると共に、囲碁教室に父母の参加を呼び掛け、親子対戦や共同の勉強会を通じて楽しみながら家庭での対話の機会を増やし、健全な家庭づくりの手助けをする。

また、健全で潤いのある地域社会づくりに貢献するため、公民館や幼稚園等のイベントや行事に参加し、親子囲碁大会・子供囲碁大会等を開催して子ども同士、親子、祖父母、ご近所をはじめ、地域の仲間を巻き込んだ交流の場づくりを行っている。

会のメンバー35名はリタイヤ組を中心に高齢者が多いが、囲碁好きに加え、子供好きである。子供やその家族との交流により元気をもらい、いきがいともなっている。

【支援金事業内容】（支援対象経費総額 382,317円 支援金確定額 191,159円 支援率 50%）

年間を通じて幼稚園、小・中学校、児童ホーム、公民館等で子供囲碁教室を開催し、児童の健全育成を図っている。教室数は36箇所、対象児童数は年間1000人を超す。

この子供囲碁教室には両親、祖父母が子供と一緒に参加することも多く、親子対戦や親子一緒に囲碁ゲームを勉強することにより、楽しみながら、親子、祖父母、家族間のコミュニケーション促進を図っている。また宿題を与える等、家庭での勉強会、親子対戦、対話促進を図っている。

また船橋市や幼稚園、公民館が主催する各種行事(親子囲碁教室、敬老の日囲碁大会、文化祭等)には積極的に参加し囲碁PRを行うと共に、地域との交流につとめている。

さらには、児童向けテキストや講師用の指導手引書の作成、各種教材開発等も行い、囲碁指導環境の整備も行っている。



幼稚園での囲碁教室

【支援金事業のもたらす効果】

今回提案する事業により、子供たちは伝統文化である「囲碁」の面白さ、知的刺激を楽しむとともに、今の子供に欠落しがちな躰、マナー、思いやり等総合的な人間力が自然に養われるばかりでなく、学力向上にも繋がっている。

また、日本の伝統文化でもある「囲碁」を学ぶことを通して日本人としての誇りが育まれる。

さらには家庭や地域社会での囲碁を通じた対話や交流促進、高齢者のいきがづくりを通じて健全な家庭、健全な地域社会づくりが期待される。

【取材を終えて】

飯山満町にある「しんめい幼稚園」の子供囲碁教室を取材しました。園長さんによると園児教育として日本文化の継承、特に礼や人を思いやる心を高めることが重要な課題と考えていたところ囲碁文化継承の会の代表者とお会いする機会があり、同じ思いに共感して、子供囲碁教室を開かれたとのことでした。

教室では囲碁の先生に多くの園児が歓迎してくれました。囲碁の内容は園児向けに遊びの心を取り入れるなど工夫され、真剣でしかも楽しそうでした。囲碁の独特な用語の「うってがえし」や「こう」などのルールも簡明に分かりやすく話されて、園児の興味を引きつけていた。

手短かに囲碁のルールを解説したあとは保育さんも参加し、園児同士で本当に楽しそうに囲碁対戦をしていました。

その間、講師の先生方は園児の間を回って歩き、質問に答えたりしています。

尚、紙製の9路碁盤と紙製の碁石を使っていました。これは紙の碁盤と碁石を自宅に持ち帰って、家族で楽しめるようにとの配慮でもあるそうです。

「囲碁文化継承の会」の代表者とのインタビューにおいて、大学でも囲碁を学問と認め、単位取得の対象としているとのことであった。小・中・高などでは、囲碁の普及は簡単なことではないと思うのですが、会の皆さんの努力により確実に囲碁教室が受け入れられていることを感じました。

以前に比べ、先生方に、囲碁愛好者が少なくなっていることや先生方が忙しくなっているため、学校現場でのクラブ活動の立ち上げが苦戦しているとも話していた。



真剣な表情で取り組む園児たち

関わり先（連絡担当者）
NPO法人 囲碁文化継承の会
事務局 楠本 和弘
TEL：047-475-3176